

第7回南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会議事録

日時 令和5年5月29日 午後3時から午後4時45分

場所 ふれ愛支援センター 多目的ホール

参加 委員 15名
事務局 4名

議事

- ①前回の検討委員会のまとめ（資料1、資料2）
- ②大和地区小学校の適正配置について
- ③その他

1. 開会（学校教育課長）15:00～
2. 挨拶（教育長）（塩川委員長）
3. 傍聴希望者について（許可）
4. 議事

教育部長 資料1、資料2について説明。

委員長 資料1及び資料2について、事務局より説明がありました。資料2については、前回までの意見を時間軸でまとめた例示との説明でした。
「地域特性の考慮」と「子供たちにとってよりよい教育環境」という両方の意見を時間軸の中で示したということですので、これからの議論を深める「たたき台」とお考えいただきたいと思います。今ほどの事務局の説明に対して委員の皆様からご質問があればお願いします。

委員 資料2大和地区の全体の人数の推移について、外国籍のお子さんについてはずっと住み続ける人と一定の期間が過ぎると国に帰る人がいるので数字が変動すると思います。おそらくこの資料はそれが考慮されていないと思いますが、15～16人くらいを追加した資料を作るべきだと思います。

教育部長 委員のおっしゃる通りで、この資料には含まれていません。外国籍児童数が伸びていくのか縮んでいくのか予想しづらいので、将来的にも現状のものをプラスして考えて今後資料作成していきたいと思っています。

委員 1クラスの人数はどのくらいの設定ですか。

教育部長 35人で割り算をしていますので、35人を越えたら2クラスということになります。

委員 進む方向としては事務局から示されたものでいいと思います。やはり1番の問題は地域や保護者の考えがまとまるのかという点です。事務局の案のように持っていくのは至難の業だと思います。浦佐小学校の老朽化が進んでいるということで、結果的にはそこに統合する形が妥当だと思いますが地域を大事にしていきたいと思います。

教育部長 地域に話しに行く段階としては、この検討委員会の答申に重きを置いて地域に入りたいと思っています。地域に入ってから意見を聞いていくので、皆さんからは子どもたちの教育環境としてどういう形がよいかをまとめていただけたらと思います。

委員 先日三用小学校、赤石小学校の運動会がありました。父兄のたくさん来ていてグラウンドの大きさと父兄の人数がちょうどいいと感じました。運動会において2クラス以上あることも統合におけるメリットとして示していただいて、地域を大事にするという点は別の視点で考えていくことが大事だと思います。

教育部長 先日、栃窪小学校の大運動会に行ってきましたが、実にちょうどいいです。そういう仕組み作りを学校も地域もしてくれています。ちょうどよく見えるのはそういった努力があると思います。現場の意見も聞かせていただいています。統合のメリットとして切磋琢磨できる環境がいいという意見が多く出ていたので、そういった点を地域の方々と共有しながらメリットやデメリットを包み隠さずお伝えして地域の方々と話し合いたいと考えています。

教育長 規模を大きくすることによってメリット・デメリットに大きく関わります。事務局から示したものは児童生徒数の面と校舎の築年数というところから議論を進めています。六日町小学校に400人子どもが集まるのと浦佐地区にいくつかの学校から集まるのでは同じ人数でも教育の在り方は変わってきます。六日町の地域特性は共通したものがありますが、大きなエリアにいくつかの学校が集まってどういう教育が可能なのか考えた時にメリットもあればデメリットもあります。特に現場の校長先生方にはそういう面も含めて意見を出していただきたいと思っています。現場の立場から、どういう教育が可能なのか、心配している点はどこかを出していただき、その中に地域というものが関わってくると思います。

委員長 続いて、②大和地区小学校の適正配置についてに進みたいと思いますが、委員の皆様からご議論いただく前に、前回の会議では大和地区にお住まいの委員の欠席が多かったため、何か付け加える意見があればお願いしたいと思います。

委員 大和地区の議員で話をさせていただきましたが、大崎小も藪神小も令和10年には複式

学級が出てくるので、なるべく早く「大和小学校」の建設に着手して12学級を維持していくのが得策だと思います。あえて三用小学校・赤石小学校の浦佐小学校との統合などは示さずに「大和小学校」を語ることで進む道がはっきりすると思います。答申を地域に持っていくのも大変ですが、子どもたちのことを思えばやはりその方向がいいと思います。北辰小学校の大改造のようにすれば大和中学校も長く使えると思うし、小学校を先に新しくしてあげるのがいいと思います。

委員 東地区は子育てに熱心な保護者多いです。地域との話し合いでは色々な意見が出てくると思います。前回の検討委員会のまとめに浦佐地区に新校舎を作ることを念頭に進めるべきとありますが、私は反対です。浦佐地区は住みやすく、人口も多い中心地ですが、住みやすい場所と教育をする場所は全く正反対です。私も20年間東京に住んでいましたが、自然の中で子育てをしたいと思い南魚沼に帰ってきました。浦佐小学校から見えるコンクリート、スーパーや民家は長岡でも東京の多摩地方でも見られます。学校の目の前に土があり、川があり大自然の中に建てられた校舎が一番魅力的な校舎の在り方だと思います。南魚沼にしかない自然の恩恵を受けられる場所に校舎を建てていただきたいというのが、私や私の周りからも意見がたくさんでています。インフラの問題もあると思いますが、あの小学校に子どもたちを通わせたいと思われるような校舎を作ることも念頭に置いて議論を進めていただきたいと思います。

委員 前回の検討委員会のまとめについては概ね賛成です。後山小学校も含めた大和地区の小学校6校が1校に統合することについては賛成ですが、三用小学校と赤石小学校が浦佐小学校に合併ということであれば現存する学校を存続させるのがいいと思います。将来的には1校に統合するのが前提であれば地域の理解も得られやすいし、校舎が新しくなるということであればより一層理解は得られると思います。

委員長 それでは、さきほど、資料2のとおり事務局から「たたき台」が示され説明もありましたが、これからは、委員の皆様から意見をお聞きして、検討委員会としての考え方をまとめていきたいと思っています。事務局の「たたき台」の修正意見や、あるいは全く異なった意見であっても構いませんが、なるべく具体的なお意見をいただきたいと思っています。

委員 大和地区においては令和10年から11年で統合して6校を一つにした教育環境を作るべきという思いが強いです。20年、30年先を見据えたことをしてあげなければと思っています。

委員 旧石打小学校は田んぼが多く周りの環境はいいですが、学校教育に求めるものはそれ以外のもので、ある程度の人数の中で切磋琢磨しながら育てていくのが大事だと思います。浦佐小学校には外国籍の児童がクラス近くいると思いますので、大和地区を

一つの学校に統合すれば各学年4クラス体制が必要だと思います。たたき台の令和8年に新校舎を建てて大勢の中で育てる方向がいいと思います。勉強ができる子、スポーツができる子など色々な子どもたちがいる中で小さい頃から育つことが大事です。令和10年大和中学校の新校舎建設というのは浦佐小学校であるべきだと思います。

委員 地域づくり協議会は人口減少や少子化問題を諦めたわけではありません。そうならないように色々なことを考えて出来るところから実践しています。小学生は構成員として大きな部類として試しています。今から協力してやらないと地域は崩壊してしまいます。子どもたちの視点でものを考えていくのが大事です。小学校が地域から消えてしまうのは悲しいことだが、現場の先生方からメリットを聞かせていただくことで違った判断材料になるかもしれません。

委員 昭和47年、小学校6年生の時に東京から来ましたが、当時は環境などをあまり気にしていませんでした。後山小学校まで含めて統合を考えていくのが大事だと思います。いくつかの学校が集まっても、年々子どもたちの数は減っていきます。空いた教室の使い道や、分校のような形にするのかというのを考えることに時間を費やしていただければと思います。市全体として人口が減少していくことについて、教育部だけでなく市長部局でも今後のことについて議論していただいて、地域に入ってみなさんと協議していただく方向でお願いしたいと思います。

委員 事務局の案がいいと思いますが、児童が多くなれば切磋琢磨できるのは分かります。一方で地域づくりの立場から言うと、子どもたちを頼りにしているので地域から小学校が消えるのは非常に痛いことです。地域や保護者の意見を聞いて進めていただきたいです。結論としてはこの案で賛成ですが、慎重にやっていただきたいと思います。

委員 大和地区の6校が統合となると学校の先生、子どもたち、地域のみなさんが相当なエネルギーを使うと思います。なるべく子どもたちの負担が少なくなるような方法で統合が進めばと思っています。子どもたちの未来のためにも大和地区がどのような教育を進めていくのか、一人の親として応援しています。

委員 大和地区については1校に統合するのがいいと思います。大きい学校、小さい学校それぞれいいところがありそこで議論しても結論は出ないと思います。人数によって野球ができない、サッカーができないという声を聴きます。それは私たち親としてはどうすることもできないので、ある程度の人数がいることが大事だと思います。自然の中の環境も大事なので後山小学校や栃窪小学校を活用することが必要だと思います。

委員 統合という部分については賛成です。それぞれ様々な意見があると思うので、メリット・デメリットを含めてなるべく早く方向を決めて地域の方々と話し合う必要がある

と思います。

委員 私は後山小学校出身で複式学級も経験していますが、先生と一対一で授業を受けられるので、子どもによってはいい面もあります。それを統合の理由とするのではなくて、地域の特性を生かして大和地区全体で子どもたちを育てていくということであれば意味があると思います。大和小学校ができた時に、授業の一環として三用小学校区でスイカ作り、赤石小学校区では八海山麓スキー場、大崎小学校区は八海山尊神社など、地域特性を生かした学校運営ができたらいと思います。統合してしまうと地域から子どもは少なくなるが、決していなくなるわけではありません。

委員 色々な形の統合があると思います。いくつかの学校が一緒になるということはどこかの学校が残って、残りの学校はなくなるという解釈もできると思います。それぞれの地域や保護者の方は校歌や教育目標には誇りを持っていますのでそれがなくなるというのは大きいことです。それがなくなっても子どもたちのために新しい学校を作って、大和の子どもたちにどんな力をつけさせたいのかや、どんな教育活動を進めていくのかをみんなで考えて前向きな統合の在り方を考えていくべきだと考えています。浦佐小学校は大きいので、順次小さい学校が一緒になる方法も案としては考えられますが、地域の方や子どもたち、保護者のことを考えるとみんながフラットな状態で新しい大和の小学校を作る、こういう子どもたちを育てていきたいから新しい校舎で新しい学校でみんなで頑張っていこう、というような流れが私はいいいと思います。浦佐小学校が大事にしてきたこともあると思いますが、大和地区それぞれの学校が大事にしてきたことがあると思うので浦佐小学校にまとまっていくというよりもフラットに大和の子どもとして統合を進めていただきたいと思っています。

委員 三用小学校が統合した3年後に赤石小学校が統合するというようにじわじわと統合するのは一校一校が培ってきたものが吸収される認識がどうしてもあります。みんなで新しいものをつくるという方が意識としてはいいと思っています。地域づくり的には地域から学校がなくなるのは痛手だという話がありました。子どもたちはそこに住んでいる訳なので、子どもたちが大和地区のもっと広いエリアを知ることになります。地域の話聞きながら進めるのは大事ですし、じわじわやるより一新して希望が持てるような方がいいと思います。大和地区がモデルとしてあがっていますが、塩沢も同じ状態なので、今後のいいモデルとして大和が貢献できるようなやり方がいいと思います。人数が多くなるメリットはあるかという話がありましたが、ある程度の人数がいないと子どもは目の前にあるものしか認識できない部分があります。また、小学校でどれだけ歩くかが一生のうちで大事な時期だと思っているので、浦佐小学校以外の地区はバス通になってしまうのはエリアが広くて仕方が無いことだと思いますが心配をしています。

委員 第一上田小学校と第二上田小学校の統合の経験がありますが、みなさん上田というのだいたい同じだと思われると思いますが、子どもも保護者も全然違うので軌道に乗るまで時間がかかりました。それを考えると浦佐小学校に大和の広いエリアから来るとなると考えなければいけないことはたくさんあると思います。良さを活かした特色のある教育を計画的に組んでいくといい教育ができるということを予想して教育活動を組んでいくことが大事だと思います。どうしても吸収合併という話が出てくるとありますが、大崎小学校や藪神小学校が統合したときに自分の地域の代表的なものが校歌に入っていないなどさみしい思いをしてほしくないし、地域の方も納得しないと思います。新しい学校を作る際に先を見通してすべてを考えていかないといけないと思います。いくつかの小学校から1つの中学校に行くと、6年生で荒れている子も中学校ではリセットして新しい気持ちになることで通常に学校生活を送れるようなことがあります。そのまま中学校にあがるとなると緊張感がなくなって心配な面もあります。子どもが増えると問題事案も増えます。しかし、級外の職員の数は変わらないのもっと話をしてあげたい、もっと見てあげたいと思うのに職員の数が足りないので残念な時があるので、学校の人数が多すぎるのも大変だと思います。最高で477人とあるので六日町小学校や塩沢小学校より少し大きいくらいとなると大丈夫かなと思いますが、あんまり多くなりすぎると級外職員を増やしていただかないと難しいと感じています。

委員 八海中学校は平成20年に答申が出てその後統合となりましたが、その時の英断が他の地域で注目されていて、他市町村から問い合わせが来ます。平成20年に答申が出て、実際統合したのが平成30年です。大和中学校を先に新校舎にすると基準も新しくなってくると思うので、そういうのを取り入れた校舎と作っていただいて地域の小学生から新しい校舎で勉強するんだ、と思ってもらえるといいと思います。八海中学校は合併後、コロナの影響で地域の活動が途切れています。中学校が地域にすぐに出られない状況が続きました。これからは小学校も中学校も地域に出て行って地域の良さを知っていく教育活動を作っていくといけないと思っています。

副委員長 新設した中学校に勤めたことがあります。新築の校舎になると子どもたちのやる気が違います。新しい校舎が子どもに及ぼす影響は大きいと思っています。また、小学校から中学校へのギャップがなさすぎると成長しないと思っています。ある程度の人数で人間関係をリセットできる環境が必要だと思います。大人数で頑張れる子もいますが、大人数になるとドキドキして入っていけない子もいます。そういった子のことを考えて特認校や分校として対応できる学校も残さないといけないと思います。477人の他に外国籍の子どもが入った時に先生方は苦勞すると思いますが、外国籍の子どもたちに触れ合うチャンスでもあります。メリット・デメリットは必ずありますのでデメリットをメリットに変えられるように考えながらやっていくところです。477人という数字を見た時に多いなと感じました。学力の面では小さい学校と大きい学校で

差はほとんどありません。採用されて6年までの教員は南魚沼市に小学校で44%、中学校で50%と経験の浅い先生が多くなってきています。1学年に複数の学級があってベテランと若手が組んでやっていく必要があります。若手の先生とベテランの先生がお互いに良いところを絡めながらやっていけるのが多学級の良さだと思います。昨年新潟県の小学校について調べましたが、約440校、平均して230人、複式は69校あり新潟市にもあります。1学年4クラスというのは厳しい部分が出てくると思います。1クラスの人数によって難儀する場合とゆとりがある場合があります。トータルしてメリット・デメリットありますが、未来志向で明るい未来を描きながら話を進めていかないと統合の話は進まないと思います。

委員長 様々なご意見ありがとうございました。ここまでの検討委員会のまとめを教育委員会に提言するとしたらどんな形になるのか「たたき台」を作ってもらいたい。それを委員で共有したうえで再度議論したいと思いますが、いかがでしょうか。

委員長 それでは事務局は「たたき台」の作成をお願いします。

午後4時45分終了

5. 次回の開催予定：7月3日（月）

6. 閉会